

育てます豊かな食とみどりの東京



農 総 研 だ よ り 第26号

平成25年10月発行

公益財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター

東京生まれの新しいキウイフルーツ

「東京ゴールド」誕生

東京都農林総合研究センターと都内生産者が共同で育成したキウイフルーツ「東京ゴールド」が、平成25年7月29日、農林水産省に品種登録（第22590号）されました。

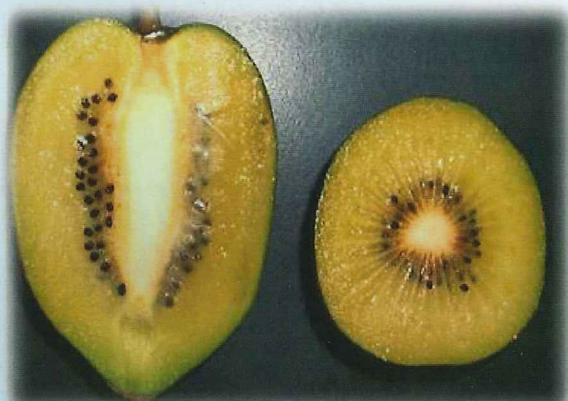
品種登録を契機に、東京の新しいブランド果樹を目指して生産を増やし、多くの都民の皆様をはじめ多くの皆様に味わって頂けるよう取組みを進めていきます。

～「東京ゴールド」の特徴～

- ☆果肉は黄色で、果心部は黄白色をしています。
- ☆肉質はやわらかで、甘みが強く、ほどよい酸味です。
- ☆果実を縦に切ると、「ハート」の形をしています。

「縦割り」

「横割り」



「東京ゴールド」
の果実



「東京ゴールド」
の着果状況

本年11月上旬頃より、多摩地区のキウイフルーツ生産者の直売所で販売を開始する予定です。詳細は財団のホームページで10月上旬頃お知らせします。
(研究企画室)

東京農林水産フェア のご案内



来て!見て!体験!

例年ご好評いただいております“農林水産フェア”を本年度も立川庁舎・青梅庁舎で行います。多くの方楽しんで頂けるイベントを計画しておりますので、是非皆様揃ってお出かけ下さい。詳細はホームページをご覧ください。

(<http://www.tokyo-aff.or.jp/center/index.html>)

会場：(公財) 東京都農林水産振興財団

立川会場：10月19日(土) 青梅会場：10月26日(土)

立川市富士見町3-8-1

青梅市新町6-7-1

電話：042-528-0505

電話：0428-31-2171

都内で人気の高いトルコギキョウの安定出荷に向けて

トルコギキョウは北アメリカ原産で、リシアンサス、またはコーストマとも呼ばれています。「キキョウ」という名がついていますが、リンドウ科の仲間です。花形や花色の幅が広いので、近年全国的に人気が高く、都内切り花生産者の中でも生産・販売量が増えています。

都内では、比較的栽培が容易な6～7月出荷が多く、一年中栽培できる栽培技術の開発が求められています。特に、お盆、お彼岸、年末時期は需要が多いのですが、トルコギキョウの生育特性にあわないため、栽培には高い技術が要求されます。



都内直売所での販売



農総研内での栽培試験
(2013年8月6日)

花き研究チームでは、これら高需要期の出荷に向け、今年は3月下旬播種、8月上旬出荷の作型の検討を行いました。この作型は生育中盤から高温期に入るため、株にボリュームを持たせ、花数を確保するのは困難ですが、花の品種によっては品質のよい切り花を収穫できることが分かりました。今後は、切り終えた株からもう一度わき芽を出し、年内出荷を目指すとともに、これ以外の作型についても検討を行っていきます。(園芸技術科・花き研究チーム)

～苗の生育をストップさせる技～ 長期保存が可能な強健苗「スーパーセル苗」とは？

キャベツやブロッコリーの育苗では、写真のようなセルトレイを用いた苗づくりが広がっています。小面積で省力的に苗を育てることができそうですが、苗の生育が早いため定植適期が短く、定植が遅れると苗が育ちすぎてしまい、老化や徒長につながります。

スーパーセル苗とは、定植適期の本葉3～4枚のときに培地内に残る肥料がなくなるよう、施肥量を調節して育てた苗です(そのため肥料制限苗とも呼びます)。肥料がなくなるので、それ以上生育は進みません。葉色は薄くなり落葉もするので、見た目は悪くなりますが、葉は硬くなり乾燥に強くなります。1日1～2回の水やりだけで6カ月以上も維持することが可能です。定植後は慣行苗と同等の収穫物が得られ、キャベツやブロッコリーでは実用性の高いことが分かっています。

近年、猛暑等の異常気象が続き、適期に定植できないことが増えています。野菜研究チームでは、そのような時でも対応できる省力・低コストな強健苗の育苗技術開発に取り組んでいます。(園芸技術科・野菜研究チーム)



慣行苗 スーパーセル苗

～東京の夏を彩るサルズベリ～ うどんこ病抵抗性品種

サルズベリは、花の少ない夏の街路を彩る植物として人気が高く、最近では多摩モノレールに沿った都道503号線のようにサルズベリだけの街路を見ることもできます。

サルズベリの普及の課題として、うどんこ病に罹りやすいという欠点があります。うどんこ病に罹ると、葉が白くなって見た目が良くないだけでなく、生育不良を引き起こします。また、蕾に感染して花が咲かなくなってしまうこともあります。

緑化森林科では、魅力ある都市景観の創出に有望な樹種として、シマサルズベリとの種間交雑によりうどんこ病に抵抗性を付与した品種「ナチェ」「マスコギー」「タスカローラ」を選定し、試験栽培しています。これらの樹種も記載された『街路樹ガイドブック』を東京都や区市町村の街路樹担当者に配付し、新しい街路樹として利用拡大に努めています。

(緑化森林科・植木チーム)



うどんこ病に罹病した葉



「ナチェ」



「マスコギー」



「タスカローラ」

「奥多摩やまめ」を利用した加工品の開発と普及

「奥多摩やまめ」(三倍体ヤマメ)を利用した加工品の開発は、奥多摩さかな養殖センターと食品技術センターが連携して7年前から始まりました。「奥多摩やまめ」は、通常のヤマメより魚体が2～3倍程度大きく、肉質もしっかりしています。

奥多摩さかな養殖センターではこのような特長を活かして、冷凍フィレ、燻製品、ひらきなどを開発する一方、食品技術センターではそれら加工品の色調、生菌数、うま味などを中心に保存条件による品質変化の試験と、賞味期限の設定について取り組みました。また、採卵後の廃魚を有効利用した「ヤマメ魚醤」を共同開発しました。「ヤマメ魚醤」は色が淡く、素材の味の引き立て役として煮物や鍋などに最適です。

現在、「奥多摩やまめ」の加工品は、宿泊施設や飲食店などの取扱い店舗数も多くなりました。これからも様々な加工法を提案しながら、新たな地域資源として根付いていくような加工品を作っていきます。

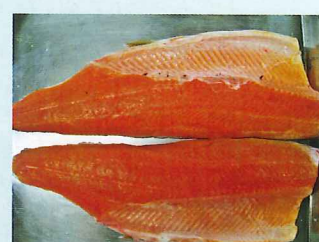
(食品技術センター)



「ヤマメ魚醤」



「奥多摩やまめ」燻製品



冷凍フィレ (解凍後)

～酪農を支えるベストパートナー～ 牛群検定データの有効活用を進めています

現在、東京都内では57戸の酪農家が、新鮮で品質の高い牛乳の生産に取り組んでいます。中でも乳脂肪分や無脂乳固形分が一定以上の牛乳は、「東京牛乳」や「多摩生まれ牛乳」として、都内のスーパーマーケットなどで販売されています。

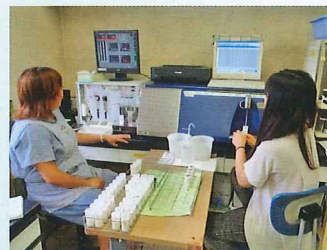
東京都では、昭和60年度から牛群検定事業を開始し、現在では27戸の酪農家が参加しています（加入率47.4%）。牛群検定とは、検定事業に参加している農家が飼養する全ての出産を経験した牛である経産牛について、乳量、乳質*1、飼料給与状況、飼料単価、乳価、繁殖記録といったデータを毎月1回、牛個体ごとに記録し、これらを集計・分析して「検定成績表」として農家に還元する事業です。青梅庁舎内に牛群検定情報分析センターが設置され、農家から送られる検査乳の分析を行っています。酪農家は検定成績表のデータを飼料給与や衛生・繁殖管理に活かしています。

畜産技術科では、農業改良普及センターと協力して、牛群検定データを活用した酪農家への技術的助言を行うとともに、これらのデータを活用した酪農経営改善に関する研究にも取り組んでいます。

（畜産技術科）



分析の前に牛乳をあためます。
1本のサンプルびんに牛1頭の1分房分(牛には4つ乳頭(分房)があります)の牛乳が入っています。



乳質分析の様子です。左側の装置で体細胞数*2を計測します。右側の装置で乳脂肪・乳糖・乳固形分・無脂固形分を測定します。

*1 乳質は、乳脂肪分、乳糖、乳固形分、無脂乳固形分及び体細胞数を測定します。

*2 体細胞数とは、牛乳に含まれる白血球や脱落細胞の数で、牛が病気にかかると増える傾向にあります。

～使う前に確認しましょう～ 農薬の使用方法について

農家を始め一般家庭の菜園でも農薬を使用する場合は、「農薬取締法」に基づいて登録されている農薬しか使用できません。その理由は、農作物の安定生産と国民の健康保護や生活環境の保全を図るため、公的機関等における何年にもわたる各種試験により、農薬としての効果と安全性が確かめられたものだけが登録を認められているからです。

具体的な使用法は、農薬の容器に添付されているラベルや袋に記載されていますので、その通りに使用すれば農薬を安全で効果的に使用することができます。記載内容は、対象となる作物・病気や害虫名・希釈倍数や使用量・使用時期・総使用回数が「適用表」に明記されています。

また、登録番号・商品名・主成分名・有効期限なども記載されていますので、使う前によく読んで確認してください。決して勝手な判断や思い込みで「適用表」の内容と異なる使用をしないようお願いいたします。もしも農薬の使用方法についてわからないことがあれば、購入したお店やJA、都の農業関係機関に問い合わせ農薬を正しく使いましょう。

（生産環境科 農薬安全性チーム）



容器に添付されているラベル

（発行者）東京都農林総合研究センター 望月龍也
 公益財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター
 〒190-0013 東京都立川市富士見町 3-8-1 TEL 042-528-5216 FAX 042-523-4285
<http://www.tokyo-aff.or.jp/center/index.html> 皆様からのご意見・ご質問・ご要望をお待ちしております。